

教会へようこそ

「あなたがたは世の光である」
(マタイによる福音書5章14節)

聖書は神様が悲しみや苦しみが多い暗い世の中に生きる私たちをご自身の光によって照らしてくださいました。その光がこの世に「まことの人」として来られた主イエス・キリストです。主イエス・キリストは私たちに大いなる愛を与えてくださいました。その愛こそが私たちに照らす光です。この光を受ける時、私たちは生きるにしても、死ぬにしても輝いた人生を送ることができるのです。

私たちが神様から愛の光を受けるとき、世界に希望の光が灯ります。死においても希望を失うことのない希望の光が灯ります。どんなときにも喜びを失わず、感謝に生きる人生を歩むことができます。さあ、共にこの光をかかげて歩みましょう。あなたはもう「光」を受けています。

長野教会の歴史

長野教会は、ジャン・カルヴァンの流れを組むプロテスタント教会です。「人は信仰によってのみ救われる」という教えを基礎として礼拝と聖書の学びを大切にし、聖書の御言葉によって自己を絶えず改革し、神様に栄光を帰す歩みを志してきた教会です。

長野教会の歩み

長野教会の歩みは、1890年(明治23年)4月に始まります。アメリカ改革派ミッションから派遣された津久井新三郎牧師によって設立されました。明治時代の後半には師範学校(現信州大学教育学部)の学生を中心に信者が集まるようになります。その中には、教育界に大きな足跡を残した手塚縫蔵や、日本のバツハ研究の基礎を築いた草川宣雄もいました。

島崎藤村が教師をしていた小諸義塾の創設者の木村熊二が牧師だった頃もあり、藤村の『千曲川のスケッチ』には長野教会の様子が書かれています。太平洋戦争中や戦後の厳しい時期には、小原福治牧師が教会を導きました。小原牧師は小学校の校長でもあり、多くの教師や教え子が集まってきました。小原牧師のもと長野教会は大きく発展していきます。

その後、小原牧師の後輩で教師の藤沢一二三牧師が引き継ぎ、さらに教会は発展しました。1993年(平成5年)には新しい会堂が建設されました。1999年より2013年3月まで岩淵正樹牧師が牧会され、現在は横井伸夫牧師が牧会しています。

長野教会の暦・行事

1月	新年礼拝(地域の諸教会とともに)
2月	レント (キリストの十字架の苦しみを思う期間)
3月末～ 4月始め	イースター(復活祭)
5月	ペンテコステ(聖霊降臨祭)
6月	花の日・子どもの日礼拝 ※子どもたちを祝福し、持ち寄った花で礼拝堂を飾り、礼拝後、病床の方にお花を届けます。
8月	教会学校など夏の諸行事があります。
9～11月	伝道集会・教会修養会 ※教会全体で信仰の学びをいたします。 バザーなど
11～12月	アドヴェント (クリスマスを待ち望む期間)
12月第三か 第四日曜日	クリスマス礼拝
12月24日	クリスマス・イブ礼拝 午後6時～

